25　　賢王の条件　　　　　　　　　　　文法　敬語①　敬意の方向　尊敬語と謙譲語

読解 行動の理由をつかむ

昔、の、われは賢王なりと思ひて、臣下の中に、「、賢王なるや」と問ひふに、といふ、「君は賢王にては㋐おはせず」と申す。「いかなれば」と㋑のたまへば、「①天の与ふる位を受くるこそ賢とは申せ、威をもて位に居ⓐ給ふ、②これ賢王の儀にあらず」と言へり。伯父の王位をうち落として、かのをとりて我が后としⓑ給へることをⓒ申しけるにこそ。さて怒りて座席を追ひ立てらる。

次にといふ大臣に、「朕は賢王なりや」と問ひ給へば、「賢王とこそⓓ申さめ」とⓔ申す。「何のゆゑ」とのたまへば、「賢王には必ず賢臣生まる」と申しければ、このを感じて、③仁佐召し返し、正しくし、賢王の名を得たりと言へり。

* 語注

魏の文王＝魏は、中国の戦国時代に建国された国の名。現在の山西省南西部、河南省北部にあたる。文王は戦国初期である紀元前三八〇年頃に活躍した魏の国の王とされる。正しくは文侯。

生まる＝現れる。

【原文】

昔、魏の文王、われは賢王なりと思ひて、臣下の中に、「朕、賢王なるや」と問ひ給ふに、仁佐といふ大臣、「君は賢王にてはおはせず」と申す。「いかなれば」とのたまへば、「天の与ふる位を受くるこそ賢とは申せ、威をもて位に居給ふ、これ賢王の儀にあらず」と言へり。伯父の王位をうち落として、かの后をとりて我が后とし給へることを申しけるにこそ。さて怒りて座席を追ひ立てらる。

次に郭課といふ大臣に、「朕は賢王なりや」と問ひ給へば、「賢王とこそ申さめ」と申す。「何のゆゑ」とのたまへば、「賢王には必ず賢臣生まる」と申しければ、この詞を感じて、仁佐召し返し、政正しくし、賢王の名を得たりと言へり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

昔、〔　　　　　　　　〕が自分の臣下に自分は賢王であるかを尋ねたところ、〔　　　　〕という大臣が賢王でないと答えた。文王は怒り、〔　　　　〕を一度は退席させたが、〔　　　　〕との会話の後に呼び戻し、それからは政治を正しく行うようになった。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（終止形でよい）。〈４点×２〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ～ⓔの敬語の種類を答えよ。また、誰から誰に対する敬意かを選べ。〈２点×５〉

ア　動作主としての文王　　イ　動作の受け手としての文王

ウ　仁佐　　エ　伯父　　オ　后　　カ　郭課　　キ　作者

　　種類 　　敬意の方向 　　種類　　　敬意の方向

ⓐ〔　　　　　〕〔　　から 　〕　　ⓑ〔　　　　　〕〔　　から　　〕

ⓒ〔　　　　　〕〔　　から 　〕　　ⓓ〔　　　　　〕〔　　から　　〕

ⓔ〔　　　　　〕〔　　から 　〕

問四　チェック問題［敬語①　敬意の方向　尊敬語と謙譲語］

次の傍線部の敬語の種類と敬意の対象を答えよ。〈１点×２〉

１　むかし、のと申す親王おはしましけり。　　　　　　　（伊勢物語）

２　（中将が帝に）薬のに（かぐや姫からの）御文添へ、参らす。 （竹取物語）

１　種類＝〔　　　　　〕　敬意の対象＝〔　　　　　　　　　　　〕

２　種類＝〔　　　　　〕　敬意の対象＝〔　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部①を現代語訳せよ。〈６点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部②とあるが、文王のどのような行為を批判しているのか。三十字以内で具体的に答えよ。〈15点〉

〔

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　傍線部③とあるが、王が仁佐を呼び戻した理由として最も適当なものを選べ。〈９点〉

ア　郭課の話に感じ入って、仁佐の言葉を忠言として真剣に聞く気になったから。

イ　郭課の必死な訴えに心動かされて、仁佐のことを許してやろうと思ったから。

ウ　郭課のに納得して、仁佐を優れた臣下に育てるつもりになったから。

エ　郭課の言葉に感心して、進言をした仁佐を昇進させてあげようと考えたから。

〔　　　〕

【解答】

問一　魏の文王／仁佐／仁佐／郭課

問二　㋐＝いらっしゃる　㋑＝おっしゃる〈４点×２〉

問三　ⓐ＝尊敬語／ウからア　ⓑ＝尊敬語／キからア

　　　ⓒ＝謙譲語／キからイ　ⓓ＝謙譲語／カからイ

　　　ⓔ＝謙譲語／キからイ〈２点×５〉

問四　１＝尊敬語・惟喬の親王

　　　２＝謙譲語・帝〈１点×２〉

問五　天が与える位を受ける人こそ賢王と申し上げるが、〈６点〉

問六　伯父の王位を奪ったうえ、その后を自分の后としてしまった行為。（30字）〈15点〉

問七　ア〈9点〉

【現代語訳】

昔、 魏の文王は、自分は賢王だと思って、臣下に、「私は、賢王であるか」とお尋ねになるが、

仁佐という大臣が、「あなたさまは賢王ではいらっしゃらない」と申し上げる。「なぜか」と（文王が）おっしゃると、（仁佐は）「天が与える位を受ける人こそ賢王と申し上げるが、威力をもって王位に居なさるのは、これは賢王のさまでない」と言った。伯父の王位を打ち落として、（さらに）あの（伯父の）后を奪って自分の后となさったことを申し上げたのだ。それで（文王は）怒って（仁佐を）席から追い出しなさる。

　次に郭課という大臣に、「私は賢王であるか」とお尋ねになると、「賢王と申し上げよう」と 　　　　（郭課は）申し上げる。「なぜか」と（文王が）おっしゃると、「賢王（のもと）には必ず賢臣が現れる〔＝仁佐ほどの優れた臣下が現れ申し上げたので、文王は賢王と申すことができる。〕」と申し上げたので、（文王は）この言葉に感動して、仁佐を呼び返しなさり、政治を正しく行い、 賢王の名を得たと（世間は）言った。

【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　傍線部の敬語の種類と、語意味を答えよ（意味は終止形でよい）。

①（匂宮は）それよりも御馬にはたてまつりける。（源氏物語）

②若君の御もとに、御文たてまつり給ふ。（源氏物語）

③持仏すゑたてまつりて行う、尼なりけり。（源氏物語）

問２　傍線部の敬語の種類と、敬意の対象を答えよ。

①（男は）睦月にはかならず（惟喬親王のもとに）まうでけり。　（伊勢物語）

②かぐや姫、（中納言を）少しあはれと思しけり。　（竹取物語）

問３　「賢王には必ず賢臣生まる」（７行目）という郭課の発言はどういうことを言っているのか。最も適当なものを選べ。

ア　賢王である文王のもとにはいつか優秀な臣下が現れるはずであり、仁佐の無礼なふるまいも今は我慢すべきだということ。

イ　文王に対して物怖じせず忠言できる仁佐のような臣下が現れたことは、文王が賢王である証だということ。

ウ　文王が真の賢王であれば仁佐も必ず賢明な臣下として成長するはずであるため、もう一度仁佐を臣下にすべきだということ。

エ　文王が賢王となるためには、自分のような優れた臣下の助けが不可欠であり、仁佐の処遇も自分に任せてほしいということ。

【補充問題解答】

問１

①【種類】尊敬語　【意味】お乗りになる

②【種類】謙譲語　【意味】差し上げる

③【種類】謙譲語　【意味】申し上げる

問２

①【種類】謙譲語　【対象】惟喬親王

②【種類】尊敬語　【対象】かぐや姫

問３　イ